

# 第1回教育委員会（定例）議事録

## 1 開 会

令和6年4月23日（火） 14時00分

## 2 場 所

市役所第2庁舎3階 2-301・302会議室

## 3 会議に出席した委員

教育長 丹後 政俊  
委 員 西田 正志  
委 員 山本 恭子  
委 員 鈴木 友美  
委 員 吉良 佳晃

## 4 会議に出席した職員

学校教育部長 酒井 寛興  
こども未来部長 田中 正典  
社会教育部長 小林 康弘  
学校教育次長 浅田 智広  
教育総務課長 山内 俊秀  
学校教育課長 小嶋 拓也  
学 事 課 長 荒木 敏文  
教育研究所長 足立 圭吾  
東部学校給食センター所長 井上 尚和  
西部学校給食センター所長 仁木 秀樹  
子育て企画課長 山鳥 有史  
保育教育課長 山田 康弘  
社会教育・文化財課長 田中 和哉  
中央図書館長 田中 真紀子  
市史編さん課長 小島 理三  
中央公民館長 竹見 朋子  
教育総務課主査 北尾 真理奈

## 5 議事日程及び議案

別紙の通り

## 6 開会宣言

14時00分

## 7 会 期

（自）令和6年4月23日 （至）令和6年4月23日 1日間

## 8 会議録署名委員名簿

鈴木友美委員

## 9 閉 会

16時25分

丹後教育長	日程第 1、令和 5 年度第 14 回会議録の報告、承認について意見等はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員異議なしで、会議録をこのとおり承認する。
丹後教育長	日程第 2、会議録署名委員は、3 番鈴木友美委員を指名する。
丹後教育長	日程第 3、会期は令和 6 年 4 月 23 日、本日 1 日間とする。
丹後教育長	日程第 4、承認事項に移る。承認第 1 号「丹波篠山市教育委員会事務局の内部組織及び事務分掌規則の一部を改正する規則の制定について」教育総務課に説明を求める。
山内課長	《議案書に基づき説明》
丹後教育長	質疑はないようですので、承認第 1 号「丹波篠山市教育委員会事務局の内部組織及び事務分掌規則の一部を改正する規則の制定について」採決をする。異議はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員賛成で、承認第 1 号「丹波篠山市教育委員会事務局の内部組織及び事務分掌規則の一部を改正する規則の制定について」を承認する。
丹後教育長	日程第 5、議案に移る。議案第 1 号「丹波篠山市スポーツ推進委員の委嘱について」社会教育・文化財課に説明を求める。
田中課長	《議案書に基づき説明》
西田委員	会長、副会長は決まっているのか。
田中課長	今後、決めていく。
西田委員	前任は誰か。
田中課長	前会長は澤光吉氏、副会長は石田万寿夫氏である。
吉良委員	委員の活動頻度はどの程度か。
田中課長	令和 5 年度に引き続き、令和 6 年度は体力測定会やミニ駅伝等、年数回の活動を予定している。あわせて県や丹波地区における委員会や研修会等に参加される等、精力的に活動されている。
吉良委員	本市はホッケータウンに認定されたが、より深い広報等は検討しているのか。
田中課長	現時点では特に検討していないが、委員会の中で検討していきたい。
丹後教育長	議案第 1 号「丹波篠山市スポーツ推進委員の委嘱について」採決をする。

	異議はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員賛成で、議案第1号「丹波篠山市スポーツ推進委員の委嘱について」は原案どおり可決する。
丹後教育長	日程第6、報告事項に移る。報告1「寄附採納について」教育総務課に報告を求める。
山内課長	《議案書に基づき報告》
西田委員	野々口校長が退職時にテントを寄附されている。退職時に学校に寄附することが慣例となっているが、他に退職された3名の校長も寄附されたのか。寄附の有無ではなく、寄附後に報告等の手続きが必要であることを理解されているのか懸念する。
山内課長	学校に寄附があった場合は報告するように周知している。しかし、退職された校長等が慣例的に実施されている寄附を含め、公開を望まれない寄附者の意向がある場合は、報告がないこともあるのかもしれない。
西田委員	地域の方等からご寄附いただいた場合も含め、きちんと手続きを踏むように周知を求めておく。
山内課長	改めて周知に努める。
丹後教育長	報告2「後援名義の承認について」教育総務課に報告を求める。
山内課長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告3「小中学校児童生徒の問題行動等について」学校教育課に報告を求める。
浅田次長	《議案書に基づき報告》
山本委員	学校で児童が友だちと交わした約束を、帰宅後、家庭の事情からキャンセルしたことで起きたいじめ事案について、先生が間に入っていたことは本当にありがたいと思うが、帰宅後のことであり、保護者間で話し合う機会を作り、解決を目指してもよかったのではないか。
浅田次長	学校外で起きた事案、かつ保護者と当該児童や生徒間で解決できる案件については、そのかたちでの解決が望ましいが、今回の事案のように学校管理外であっても対象児童が多く、それぞれの言い分を聞いた上で事実確認を行う必要がある場合は、学校が間に入る方がスムーズに解決につながることも

	あると考えている。
丹後教育長	報告4「民間通所施設（オルタナティブスクールまめの木）の再認定について」学校教育課に報告を求める。
浅田次長	《議案書に基づき報告》
山本委員	不登校児童生徒にとって、登校はできなくても安心して過ごす場所があることは本当に大切なことである。3年間の当該施設の利用実績を教示願う。
浅田次長	手元に詳細資料を持ち合わせていないが、ここ3年間は平均して15名程度が在籍している。
山本委員	所在地である多紀地区以外の児童生徒も通っているのか。
浅田次長	多紀地区外から通っている者もいる。
山本委員	学校等への復帰状況を教示願う。
浅田次長	学校に戻った児童生徒や高校へ進学した生徒もいる。また、教育支援センターゆめハウスに移った者もいる。
山本委員	引き続き、こういった施設があることについて周知願う。
浅田次長	教育支援センターゆめハウスだけでなく、民間施設等とも連携していかなければならないと考えており、引き続き周知していく。
西田委員	当該施設の指導者はどのような方か。
浅田次長	代表者である西村氏と配偶者の他、スタッフは日本人2名と外国人ボランティアである。
西田委員	全体としては5名で、うちボランティアが1名ということか。
浅田次長	その通りである。ボランティアについてはその時々で人数が異なり、訪問時は1名であった。常時ではなく入れ替わりがあると聞いている。
吉良委員	どの程度の人数を受け入れできるのか。
浅田次長	民家を改造された施設であり、15名程度の受入が可能であると思われる。また、現在、既存施設のすぐ近くで新たな施設を作っておられるが、そちらでも学習が行われる予定であり、受入人数は今後増えると考えられる。
丹後教育長	不登校児童生徒が増えていることもあり、非常に関心を持っている。子どもたちは学校でたくさんのかたのことを学ぶので、学校へ戻れるにこしたことはないが、様々な場所で自分の居場所を見つけて、元気を取り戻す措置をとることが大事であると思う。そこでエネルギーを回復した後、学校へ戻ったり、自分の進路に向かって進み出すこともあり、居場所づくりは非常に大事なことでありと認識している。
丹後教育長	報告5「令和5年度学校評価報告書について」学校教育課に報告を求める。
小嶋課長	《議案書に基づき報告》

山本委員	<p>全ての学校で関係者の評価を含め細やかに分析いただいているとともに、それぞれ特色ある取り組みを共有させていただいていることに感謝する。学校だけでは解決できないような家庭の問題等も増えてきている中、一層、地域、保護者、関係機関や専門家とつながりを持ち、課題解決に取り組んでいただいていると評価する。今後においても、安全安心を第一に子どもたちが元気で楽しく過ごせる学校づくりをお願いします。</p>
小嶋課長	<p>お聞きしたことを校長会等で伝えるとともに、子どもたちの自立に向けてより良い学校環境を作っていけるように指導していきたい。</p>
西田委員	<p>PDCA サイクルに沿って学校の評価、改善につなげているが、マンネリ化しないように注意していく必要がある。そうした中、学校評価報告書において、「改善を要するものがない」学校がある。私も校長時に実施してきたが、自身の学校経営に対して、改善していくことがないことはなかった。以前にも話したが、校長が過小評価している部分があれば、事務局から「そのようなことはない」と指摘し、引き上げていくことも必要であるが、逆に「改善するものがない」に関しては、目標設定面談等において、課題があればその旨を指摘いただきたい。無理に課題を挙げる必要はないが、こうした傾向が強くなってきており、課題にしっかりと向きあえていないのではないかと懸念している。</p> <p>読書活動についての記述はないが課題はないのか。事務局として、司書の配置等も含め、学校への支援が必要であれば検討されたい。</p> <p>コロナ禍が過ぎて、従来の学校運営に戻ることができた学校がある一方で、戻したいが戻れていない学校もあると思う。行事を見直し、無駄を省いた上で、継続的に行事を行っていくと考える学校等、様々であると思うが、ばらつきがあることも気になる。私もまちづくり協議会の行事の中で学校と関わっているが、ふるさと教育が不十分で、もっと充実していきたいと記述している学校がある。規模の大小はあるが、学校によって、ばらつきがあることが気になった。</p> <p>不登校が大きな課題となってきているので記述があると思っていたが、学校が不登校をどのように捉えているのかの記述があまりなかった。居場所づくりについて、様々な選択肢を設け、可能性を広げることが大事である一方、学校は何ができるかについて考えてほしい。</p>
小嶋課長	<p>学校評価の観点については、校長自身の判断であったと思うが、ご指摘の通り、課題がないことはないと思うので、積極的に挙げていただき、よりよい教育活動が展開されるように、校長会等で伝えていきたい。</p> <p>読書活動に対する支援、コロナ後の学校の取組、不登校についても、教育委員会として指導を行っていくとともに、支援していきたい。</p>
西田委員	<p>読書活動に関し、学校と図書館との連携状況はどうか。</p>
田中館長	<p>学校への図書貸出は引き続き行っているが、希望校のみの貸し出しとしている。</p>
西田委員	<p>学校にも司書教諭はいるが専門職ではない。図書館との連携をさらに進め</p>

山本委員	<p>てほしい。</p> <p>読書時間が減少傾向と記述している学校があり気になった。親も読書を一緒にする親子読書も必要であると思うが、正直、親自身が読書する時間がない。保護者の一人としては、学校で促すというより、幼い時からの家庭での読書習慣がとても大事であると思っている。脳科学の川島隆太先生も言われるように、ICT等の活用はいいことであるが、やはり活字、読書が本当に大事であると思う。読書時間を確保することは難しいと思うが、私も家庭では教科書と新聞は読んでほしいと子どもに言っている。家庭だけでは難しいと思うので、学校と保護者が一緒に読書について話し合う機会があったら良いのではないかと思った。</p>
小林部長	<p>図書の貸し出しについては、全小学校を対象としつつ、その中で要望のあった学校に限定していると説明したが、補足する。全ての学校に対応することが理想であると思うが、限られた図書館のマンパワーの中で業務を進めていく必要がある中、優先順位をつけ、業務が疎かにならないように精査しながらやっいていこうとすると、全学校をカバーすることは負担が大きくなってきていることが現状であることから、要望があった学校から優先的に貸し出しを行い、今後、マンパワーが充実すれば、幅を広げていこうと考えている。図書館業務も幅が広いので、今年度については要望があった学校にのみ対応していくということをご理解いただきたい。</p>
鈴木委員	<p>今日の午前中に参加したイベントで、未来の子どもたちに残したいことということで、ふるさと教育に関わることが多く挙げられていた。多くの保護者が体験させてあげたいと言っていたが、校区によって差があるとの意見も挙がっていた。保護者として、自分たちの子どもたちが成長した時にどのような丹波篠山を残したいかについて、多くの方が語られていたので、ぜひ、ふるさと教育に力を入れていただきたい。</p>
小嶋課長	<p>ご意見は校長会等で伝えていく。</p>
西田委員	<p>最終的には、校長の経営方針にかかってくると考える。校長が方向を示せば、その方向で学校は変わると思う。私が、古市小学校に在職していた時、地域のことを教員が知らないで、地域の企業について知るため、夏休みに周辺企業を訪問した。言い訳になるが、忙しくて地域に出て行く時間がないので、夏休みを利用し訪問してみると、私も知らないことが多くあった。この試みが発展し、工場を見学する校外学習を組んだ教員もあったが、校長が率先してふるさと教育を積極的に進めないといけないと思う。</p>
丹後教育長	<p>ふるさと教育の大事さについては私自身も同感である。今までやってきたことを同じように取り組むとマンネリ化するので、同じことだけをするのではなく、体験を通じて、どのような力を子どもたちにつけさせたいのかを教員自身が考え、取り組んでいかないといけない。地域の特色を生かしたふるさと教育の取組はどの学校でも実施されていると思うが、さらに進めていけるよう教育委員会も方向性を示していきたい。</p>
吉良委員	<p>地域とつながるにあたっては、学校の働き方改革という観点から長時間は</p>

小嶋課長	<p>難しく、地域へも出て行けない。コロナ禍で、関わりが希薄になった状態で、どのように再開していくのか。運営協議会の在り方、方向性等を詰めることが、これからのふるさと教育の実働に関わってくると思う。</p> <p>社会的に自立していく力を身につけるとともに、ふるさとの良さや愛すべきところを知る子どもたちを育てることが大切な目的であり、ふるさと教育を学校教育の中に上手に取り入れ進めてきたい。</p>
丹後教育長	<p>報告6「令和5年度丹波篠山市学校運営協議会の総括について」教育研究所に報告を求める。</p>
足立所長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
山本委員	<p>委員の任期について、例えば、自治会長の場合は一年のみとなり、継続的な取組をしたいが難しいということや、日中に出席ができないこと等、課題があると思う。解決策については、学校の判断になると思うが、まずはそういった点も含め、学校運営協議会で協議していただきたいと思う。</p>
足立所長	<p>委員の出席については、難しいというところもあれば、上手くいっているところもあると思うので、情報共有できるよう、教育委員会事務局として支援していきたい。</p>
西田委員 山内課長 西田委員	<p>学校運営協議会の名前で、要望書が提出されたことはあるのか。</p> <p>連名であるが、名を連ねられている事例があった。</p> <p>学校運営協議会は、学校運営について話し合う場であり、要望団体ではないと思っている。私自身、山内課長が学事課に在職していた当時、報告書の中で出ている意見についても改善を検討してほしいと伝えてきた。報告書の中で要望を書かれたら良いと考える。ただ、要望団体のようにするのは違うと思うので、教育委員会事務局が指導すべきであると考えている。</p>
足立所長	<p>学校を運営していくために協議を行う会議との意味について改めて周知、指導していく。</p>
西田委員 足立所長	<p>先進事例の紹介等、熟議を進めるための研修も検討されたい。</p> <p>研修会の実施等を検討していく。</p>
丹後教育長	<p>続いて、報告7「令和5年度幼稚園・こども園学校評価報告書について」保育教育課に報告を求める。</p>
山田課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
吉良委員	<p>課題解決を図るために様々な研修が企画されていると思うが、保育士不足の中で、研修時間の確保が困難であり、歯がゆい思いである。研修時間をどのように確保していくのか、工夫点を教示いただきたい。</p>
山田課長	<p>保育士不足等が課題になっている中、研修に行きたいのに行けないとの現状</p>

	<p>があることは認識している。昨今続く課題であり、早急な解決は難しいが、まずは人材確保と並行し、研修の大切さを伝え、出来る限りの時間をつくり研修に参加いただくように努めていくこと、派遣支援員を活用し、より研修に参加しやすい環境をつくっていただけるように努めていきたい。</p>
西田委員	<p>小中特別支援学校については、各校長の目標があり、その目標達成に対し評価するとともに、学校評価と連動してヒアリングも行っている。一方、幼稚園については、市職員の人事評価があるだけである。それは目標設定ではなく個人としての評価であり、連動しないのが課題であると感じる。</p>
山田課長	<p>園長会等を通じ、伝えていきたい。</p>
山本委員	<p>どの園もホームページ等での情報発信を活発にされており、保護者としても幼稚園の様子を伺うことが出来るので大変ありがたい。報告でも、保護者一人ひとりとのコミュニケーションを大切にされていると感じた。幼稚園での生活を楽しんでいる、成長していると保護者が評価しているが、子育ては長く続くものであり、親同士の良好な関係を作っていただけるように幼稚園やPTA から関係をつくっていただき、子どもと保護者が孤立しないようお願いしたい。</p>
山田課長	<p>各園とも積極的に情報発信に努めており、今後においても力を入れられるものと思っている。</p>
丹後教育長	<p>報告8「丹波篠山市子育て支援アドバイザーの就任について」子育て企画課に報告を求める。</p>
山鳥課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
山本委員	<p>中川アドバイザーが就任され、子育て団体が横のつながりができ、子育ての大変さを感じる人たちの力になっていただけることを期待している。中川アドバイザーと学校園が必要に応じて情報共有できる仕組みづくりが出来ればありがたい。</p>
山鳥課長	<p>令和5年度より情報交換会を開催している。子育て支援団体があれば、子育て企画課へお声がけいただきたい。子育てアドバイザーからのアドバイスを聞くことができる場の提供を市広報紙4月号でも周知している。幼稚園、学校との連携については、子育ていちばんのまちづくりに必要な取組と認識をしており、今後、子育てアドバイザーと一緒に検討していきたい。</p>
鈴木委員	<p>活動計画の(1)子育て支援施策に関することで記述のある講演会とは、誰を対象とした講演会か。</p>
山鳥課長	<p>子育て中の保護者等を対象に連続講座的な講演会を計画している。</p>
鈴木委員	<p>活動計画の(3)子育て支援団体等からの相談に関することで記述のある相談会は、希望する団体と行うのか。それとも支援団体が集まって行うものか。</p>
山鳥課長	<p>アドバイザーに団体の活動の様子を実際に見ていただくために、現地へ出</p>



	<p>向き、団体が抱えている課題等について話を聞かせていただく相談会と子育て支援団体が一堂に会し、課題や子育て支援策について情報交換を行う会、希望団体を対象とする意見交換会等を計画している。</p>
鈴木委員	<p>活動計画の(4) その他子育ていちばんのまちづくり及びこどもまんなか社会の実現に必要な事項で記述のある(仮称)子育て応援・親子フェスティバルについては、支援団体が主体となるフェスティバルとなるのか。</p>
山鳥課長	<p>現在、検討中であるが、子育て支援団体と行政が一緒になった実行委員会方式を採用し、今、子育てをされている方のストレスを解消できるような内容をイメージしている。本市の子育て支援団体とのつながりの場になるようなイベントとなるように計画を進めていきたい。</p>
鈴木委員	<p>子育て中の保護者のストレス解消等が目的の一つのことであるが、子育て団体同士の連携も兼ねていると思うので、漫然と進めてしまうともったいなく思う。実行委員会を数回開き、各団体の横のつながりを作ったうえで、フェスティバルを開催できたらと思う。</p>
山鳥課長	<p>ご指摘のとおり、このフェスティバルについては、地域団体同士のつながりをつくることも目的にしている。その中で、実行委員会において、どのようなイベントを望まれているのか、子育て支援団体の課題等も情報共有できるような建設的なイベントになればと思っている。初めての取組であり、実行委員会を数回開催し、進めていきたい。</p>
丹後教育長	<p>報告9「令和6年度4月小・中・特別支援学校定例校長会について」学校教育課に報告を求める。</p>
浅田次長・足立所長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
西田委員	<p>校長経験のある有能な先生である学校園経営指導主事の活用を充分図っていただきたい。名のとおり学校経営に係る指導助言をする指導主事であり、学校が困った時だけ臨時的に行くのではなく、学校の経営状態の把握のためにも普段から関わっていただきたい。目標設定等、他にも関わるところがないかも考えていただいた上で、学校園経営指導主事が定期的に学校訪問していくべきであると考え。嘱託職員との遠慮もあるのかもしれないが、学校園経営指導主事については、経験を考慮し、採用試験を省いて有能な方を集めている経緯もあり、出来るだけ学校訪問等の機会を増やし、元校長が普段から学校の経営状態を掴んだ上で、何かあればすぐにサポートに入るかたちを考えていただきたい。</p>
浅田次長	<p>ご指摘のとおり、学校園経営指導主事を有効活用していくことは大切である。実際、4月～5月中に新任校長や年数の浅い管理職と面談をする中で、困り事や学校経営の状態を聞き取っている。また、新任教員や臨時講師等の訪問も実施している。そうした上で、目標設定面談や学校経営ビジョンヒアリングについては、今年度も引き続き、学校園経営指導主事が入り、指導助</p>

西田委員	<p>言いただく予定である。</p> <p>丹波教育事務所も近隣学校の管理職の激励訪問や、支援チームが新任教職員のところへ行って話を聞いている。市教育委員会として、できることをしっかり考えて行っていただきたいので、よろしくお願ひしたい。</p>
山本委員 浅田次長	<p>公立学校文書取扱規程について、全ての決裁がPDF化となるのか。</p> <p>本市のグループウェアであるサイボウズにおいて、いつ、どこから発信され、どのような内容の文書であるのかが明確なものについては、文書処理簿に記載する必要がないとした。一方、郵送で受け取ったもの、つまり、紙を受け付けたものについては、今までどおりとしている。今後、業務改善を図る研究の土台づくりであるにご理解いただきたい。</p>
西田委員	<p>刑事事件に発展するような案件が起こった時、その処理について認知していたかが問われる場合がある。古市小学校での転落事故が発生した時に、リーフレットを学校へ送っていたのかが問われた。懸念があるので、本当に最重要なものについては適切に処理していくことが重要であると思う。</p>
浅田次長	<p>業務改善とは言え、適切な処理が必要なものもあるので、よりよい決裁方法を進めていけるように土台づくりをしている。今後も検討を重ねていきたい。</p>
丹後教育長	<p>報告10「令和6年度4月保育園・幼稚園・こども園長会について」保育教育課に報告を求める。</p>
山田課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
西田委員	<p>幼稚園へのコミュニティスクールの導入について、3年間で取り組んでいくとの予定であるが、現在の状況は。</p>
足立所長	<p>令和5年度に八上、西紀北、城南幼・小、たき認定こども園に導入、令和6年度は篠山、城北畑、岡野、大山幼・少、今田こども園で導入予定ある。残るは古市、かやのみ、西紀南、味間認定こども園となる。</p>
西田委員	<p>給食におけるウズラ卵の取扱い中止について、保育所の給食も含まれるのか。</p>
井上所長	<p>ウズラ卵と白玉団子、ミニトマトについては、当面の間、給食で提供しない方針としており、保育園やこども園等、園内で調理されている給食についてもそれらを参考に提供されるものと考えている。</p>
西田委員 井上所長	<p>幼稚園給食は見合わずが、小学校については提供するということか。</p> <p>平成28年にこども家庭庁から出されたガイドラインの中で、幼稚園等の5歳児までは提供しないとされており、それを参考に判断した。ウズラ卵については、調理の過程で幼稚園と小学校分に分けて調理するのが難しいため、小学校についても提供しない方針としている。なお、材料の提供や調理方法において改善方法が見つけられた場合は、再度、提供することとしている。</p>

西田委員 井上所長	<p>校長会で説明しているのか。</p> <p>校長会でも報告している。</p>
丹後教育長	<p>報告 11「令和 5 年度学校給食異物混入状況について」学校給食センターに報告を求める。</p>
井上所長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
丹後教育長	<p>報告 12「令和 5 年度丹波篠山市立中学校卒業時の進学状況について」教育総務課に報告を求める。</p>
山内課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
丹後教育長	<p>報告 13「教育長報告」について報告する。</p> <p>前回の定例教育委員会以降のスケジュールについては 27～29 頁に記載している。新年度が始まり、学校園の入学式に参加した。新年度を迎えて児童・生徒、教職員のやる気に満ちている様子を身近に感じて嬉しく思っている。この状態を続いていくように支えていきたいと思っている。</p> <p>次に、4 月の校長会では新年度になり新しい校長も居られるので、丹波篠山の教育について、再度説明した。アンダーライン部については、国内の自然災害の状況も踏まえ、防災体制の充実を図るとともに、自分や仲間の生命を守れるように教育をしていくことを改めて確認した。全体としては丹波篠山の環境を生かし「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるとともに、「自然体験」や「地域活動体験」を一層発展させ、子どもたちに未来を生き抜く力を身につけさせることを目指している。これを「令和の丹波篠山型学校教育」と言っているが、国の方向性を先取りし、進化させているという自負のもと、さらに進めていこうと考えている。その下、「誰一人取り残さない教育」を目標に取り組んでいきたいと考えている。様々な状況もあり難しいこともあるが、一人一人に配慮しながら、進めていかなければならないと思っている。教職員も含め、全職員一丸となり、皆が幸せに暮らせる教育・社会をつくっていききたいと思っている。</p> <p>以上で、本日の審議は全て終了する。</p> <p>これをもって、第 1 回定例教育委員会を終了する。</p>